

仙台

文学館

ニュース

Sendai
Literature
Museum
News

第四十九号

エッセイ

あかまつの道を抜けて

第11回 ―― 「空は屋根の彼方で」

佐伯一麦

窓の向こうに樺の大木があり、微かに揺れる梢の先に夏の青空が広がっている。

それを仰ぎ見ていると、

〈空は屋根の彼方で

あんなに青く、あんなに静かに、

樹は屋根の彼方で

葉を揺がす。

(中略)

ああ神様、これが人生です、

こんな詩が、天から降ってくる心地

となる。それは、フランスの詩人ヴェ

ルレーヌの詩集『叡智』に収められて

いる詩篇の一節である(※)。

私が電気工をしながら小説を書いて

いた二十代の頃、ビルの屋上にある高

架水槽などの高所で工事をしている最

中に、ふと空を見上げて、空の青に引

き込まれるような不思議な気分を味わ

うたびに、その詩句が浮かんだものだ

た。そうして、彼方の世界に足を踏み

出したくなる気持ちに陥るのを避ける

ために、私はよく馴染みのクラシック

の曲を口笛で吹いた。すると、自分が

今いる足場が、高くて危険な所だとい

う場所の感覚が失われずに済んだ。

じつは、ヴェルレーヌが先の詩で見

ている空、そして樹木は、獄中に囚わ

れの身となっている者の眼に映った風

景である。彼は、同性愛の相手ランボー

をピストルで撃ち、手首に傷を負わせ

て逮捕され、その後二年近くを監獄の

内で過ごした。その時の悔恨と贖罪の

思いから生まれたのが、『叡智』とい

う巻の詩なのである。

ところで、ヴェルレーヌの詩を愛し

た意外な人物に、プロ野球の大洋ホエー

ルズ(現横浜DeNAベイスターズ)の

元外野手で監督も務めた江尻亮(あきら)がいる。

現役時代から読書と詩作が趣味で、ヴェ

ルレーヌをこよなく愛し、ナイターで

外野を守っているときに、澄んだ夜空

を見上げると、ふとリルケの詩を思い

だしたりする、と言っていた。

そんなことでは凡フライを落しかね

ないのではないかと気になったものだ

が、じつさいの江尻は強肩で知られ、

外野手としてベストナインに選ばれる

名選手であった。ちなみに、一九六五

年に入団したときには本格派左腕とし

ても期待され、当初は、いままの大谷翔

平選手同様、投打「二刀流」でプレー

する先駆者でもあった。

(さえきかずみ 作家・仙台文学館館長)

※河上徹太郎訳/ポール・ヴェルレーヌ『叡智』に拠りました。

■「あかまつの道」は、台原森林公園と仙台文学館をつなぐ散策路です。

CONTENTS

エッセイ

「あかまつの道を抜けて」佐伯一麦 ……1

シリーズ

「私の一冊」瀬尾夏美 ……2

特集

いろいろある!

文学館での過ごし方 ……4

予告

特別展「樋口一葉・その生涯と文学

―貧しく、切なく、いじらしく― ……6

文学館日誌 ……8



写真:佐々木隆二

瀬尾 夏美

長田弘

『詩ふたつ』

お世話になっていた写真館の店主が亡くなって、もう十年になる。店主と知り合ったのはそのたった一年半前で、雇われていたのは一年ほどだが、そのほとんどの期間、店主は闘病生活を送っていたので一緒に働くこともなかった。それでも、亡くなったときはとても悲しかった。誰かが亡くなる悲しみなんてほかと比べるものではないけれど、店主にはたくさんのかを教えてもらったし、自分の人生にとってもあの時期は濃密で、特別だったと感じている。

当時わたしは東京の美大生でありながら、岩手県の沿岸部に暮らしていた。東日本大震災から一年とすこし。まだ復興工事も本格化しておらず、わたしは津波で流された町跡を歩いてはスケッチを描いたり写真を

撮ったりし、行きあうまちの人たちにぼつりぼつりと話を聞いていた。語りの大半は、ここにあった（そしていまはない）ものの話だった。ここにわたしの実家があって、壁の色はこんなふうで、でもね、やさしかった父と母も、もういないのよ。

親友と飲んで、よくここを歩いたなあ。あの店は朝までやってて世話になったが、いまじゃあいつもいないし、店もない。

思い出話をすれば、必ず喪失の経験と結びついてしまう。そんな壮絶な状況を生きる人たちにとっては、語ることは喪の作業でもあっただろう。揺れるところを抱えながら、これから生きる手立てを模索する。日々移り変わる風景を前に、おぼろげになる記憶を確かめる。そんな彼らの姿を大切に受け止めたくて、彼らの語りを書き留めておきたくて、わたしは頼りなくとも記録係になろうと、このまちへ引っ越してきたばかりだった。

そんなふうにあたりをうろろろしていたわたしに、じゃあやってみなさいと声をかけてくれたのが店主だった。

写真館の仕事はまちの記録係なのに、店ごとすべて流されてしまつて、家族も守れなかった。おれは本当に情けない。

店主はそう言つて涙を流しながら、だからお前がやれ、と言う。わたしでいいのかとたじろいだけれど、やってみるしかないと思つた。

わたしが写真館に入った頃にはすでに、店主の体調はよくなかつたが、ある寒い日の夜、ついに倒れてしまふ。それから息子さんが仕事を引き継ぐことになり、わたしは店の事務員さんたちと看病チームを組んで、仕事帰りに病院に寄るようになった。

ある日、店主はうれしそうな顔をしていた。震災後に意見の相違があつて仲違いした後輩が、見舞いに来てくれたのだという。

まるで生前葬してもらつたみたいだよ。おれの姿を見て、あいつが泣いてくれてね。おれも一緒に泣きながら、思い出話なんかしちやつてさ。このように、病を得たことがきっかけになつて、店主は震災で出来た亀裂をひとつひとつ修復していった。

長田弘
詩ふたつ



長田弘
画：グスタフ・クリムト
『詩ふたつ』
(2010年 クレヨンハウス)

肩の重荷が降りていくからか、からだは日に日に痩せていっても、表情は明るかつた。自宅療養に切り替えてからは、写真館でコーヒーを飲むのが日課になった。わたしは仕事をサボつては店主の話を聞いていた。終わりの気配はつねに付きまとつていたけれど、それはとても楽しい時間だった。

倒れてから一年と数日が過ぎたある日の明け方、店主は亡くなった。自宅のベッドで眠つたまま、起きてこなかつたのだという。

長田弘さんの『詩ふたつ』といううつくしい詩集に出会つたのは、それから半年ほど経つた頃だった。タイトルの通り、「花を持って、会いにゆく」「人生は森のなかの一日」というふたつの詩からなるこの本は、ク

なかにのこしていった／たしかな記憶を、わたしは信じる。」

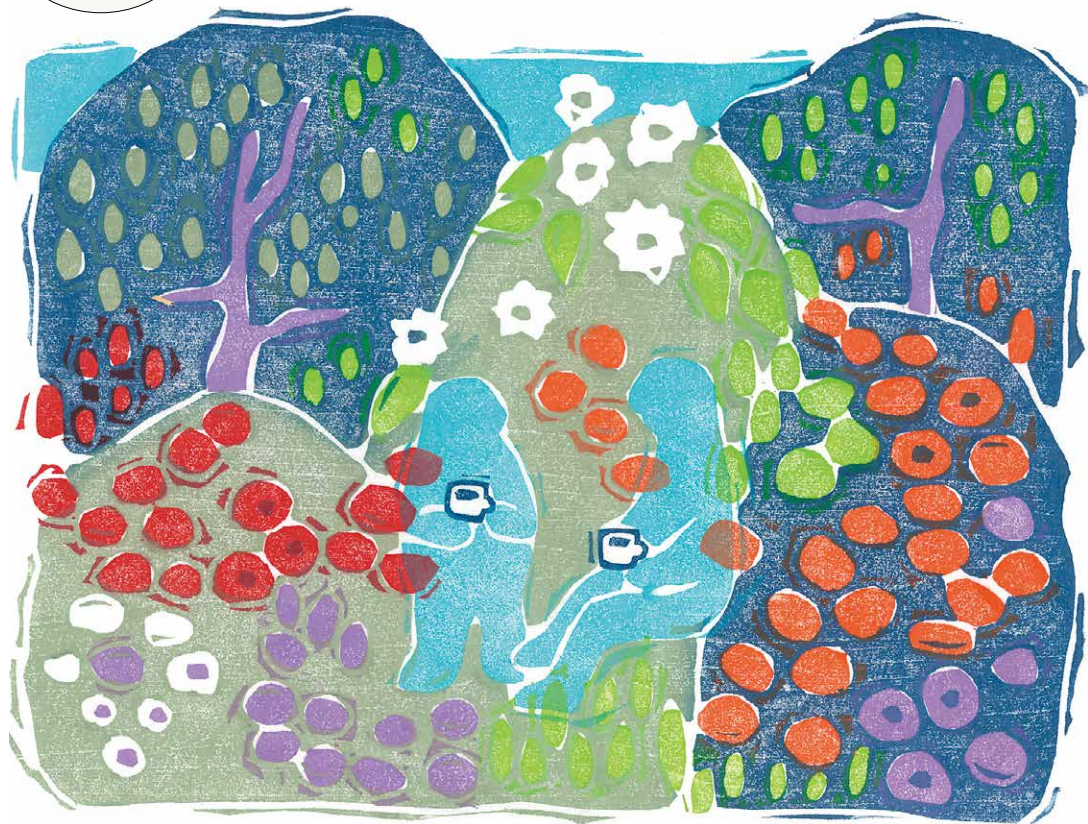
妻・瑞枝さんを喪つた長田さんは、あとがきに「喪によつて、人が発見するのは絆」であると書いている。ああそうか。亡くなった人は「いつも、ここにいる」。そして、喪失の悲しみの先には、きつと希望がある。

店主が立ち止まつた場所について考えていると、ふと、町跡に花を手向けていた人たちの顔が浮かんだ。彼らの抱える悲しみは計り知れないけれど、彼らはあのか、確かな絆を見つけていたのかもしれない。

先日、久しぶりにこの本を開くと、

「人生は森のなかの一日」の言葉がからだに馴染んだ。木を植えて、森が出来る。虫や動物が寄る。光が射し、影が濃くなる。そんなうつくしい森から黙つて去るように逝くとき、「人生は森のなかの一日のようだったと言えたら、／わたしはうれしい。」

わたしはやつと、この本が、ふたつの詩が支えあつて出来ているのだと気がついた。その人の死を悲しみ、弔うこと。そして、確かに生きた時間、ともにいた記憶を、喜ぶこと。わたしは、短くとも、店主と過ごした時間が確かにあつたことを喜びながら、生きていこう。



版画：明才



瀬尾夏美
せお なつみ

©Hiroshi Ikeda
アーティスト、作家。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。東日本大震災のボランティアを契機に、映像作家の小森はるかさんとユニット活動を開始し、岩手県陸前高田市に拠点を移す。現地での対話の場づくりや作品制作を経て、2015年に仙台市で、土地との協働を通した記録活動をする一般社団法人 NOOK を立ち上げる。現在は江東区で studio04 を運営しながら、“語れなさ”をテーマに旅をし、物語を書いている。著書に『あわいゆくろ——陸前高田、震災後を生きる』(品文社)、『二重のまち／交代地のうた』(書肆侃侃房)、『声の地層——災禍と痛みを語ること』(生きのびるブックス)等。

いろいろある！

仙台文学館での過ごし方

展示を見るだけじゃない！ 本を読んだり、
カフェで一息ついたり、創作活動をしたり……
じつは、一日中過ごせる場所なんです。
あらためて、仙台文学館でのいろいろな過ごし方を提案します。

3F

1 常設展示室で

仙台・宮城ゆかりの文学に親しむ

常設展示室では、仙台・宮城ゆかりの文学者や、仙台を舞台にした作品などを紹介しています。現役作家の新作コーナーは、座って読書をしてOK。



2F

2 こどもの本の部屋で

絵本や児童書を楽しむ

約2000冊の絵本や児童書がそろった部屋。こどもや親子連れはもちろん、大人の方も懐かしい絵本を探してみませんか？ じゅうたんのスペースでゆっくり本が読めます。
※館外への本の貸出はしていません。



4

情報コーナーで
読書や調べものをする



文芸誌、新聞、宮城ゆかりの作家の本、マンガなどをお楽しみいただけます。また、ここに配架していない蔵書の閲覧もできますので、ご希望のかたはお声がけください（当館のウェブサイト上で資料の検索ができます）。

5 カフェびざしの杜で ゆったりカフェタイム

カレー、うどんといった定番メニューに加え、ナポリタンやミックスプレートなども人気。デザートやこだわりのコーヒー等の喫茶メニューも充実しています。展示にちなんだ特別メニューも提供していますので、ぜひ展示とともに楽しんでください。
営業時間 10時～16時（フードオーダーは15時30分まで）



3 交流コーナーで読書や創作etc
テーブルと椅子があり、本を読んだり、創作活動をしたり、ちょっとした打ち合わせをしたりと、予約不要で自由にお使いいただけます。飲食もOK。窓側は庭に面しているもので外の景色を眺めながら過ごせますよ。また、全国の文学館やミュージアムのチラシを配架していますので、情報収集にもご活用ください。



2F

6 総合受付で

図録やミュージアムグッズを買う

2F受付では、展示の観覧券を販売しているほか、当館オリジナルの図録やミュージアムグッズをご購入いただけます。文学館のお土産にいかがですか？



また、受付近くには、佐伯一麦館長のエッセイ「私が出会ったことば」のパネルを季節ごとに掲示しています。お見逃しなく！

屋外

7 北根の杜で

自然散策や
文学碑めぐり

文学館のある地域「北根（きたね）」にちなんで、周辺の森を「北根の杜」と呼んでいます。建物の背景には自然豊かな台原森林公園がひろがり、文学館は街と自然をつなぐ入口のひとつになっています。天気の良い日は、文学館から森林公園に通じる「あかまつの道」での自然散策や、敷地内にある歌碑・詩碑めぐりができますよ。

※文学館のXでは「#北根の杜」で近隣の自然のことを日々ポストしています。@sendalit



扇畑忠雄歌碑

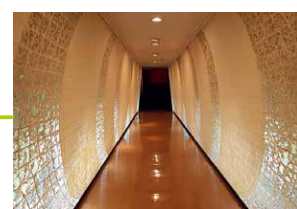
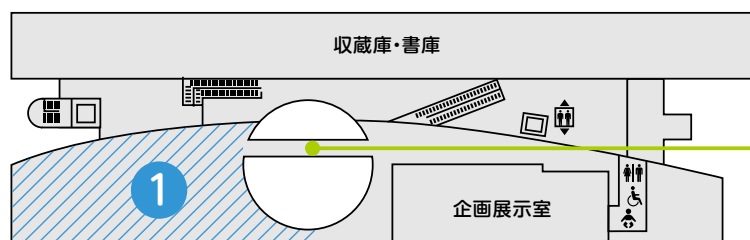


池では鯉や鴨が暮らしています。



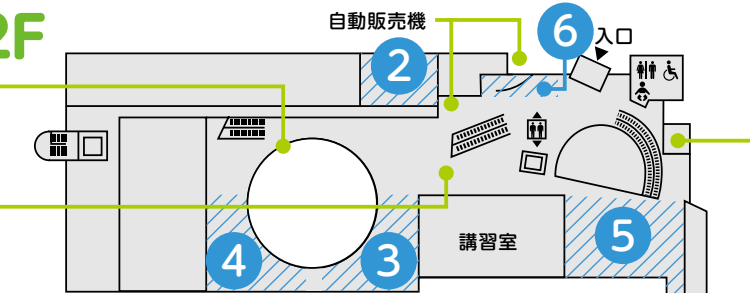
つつじや桜、あじさいなどの季節の花が目を楽ませてくれます。

3F



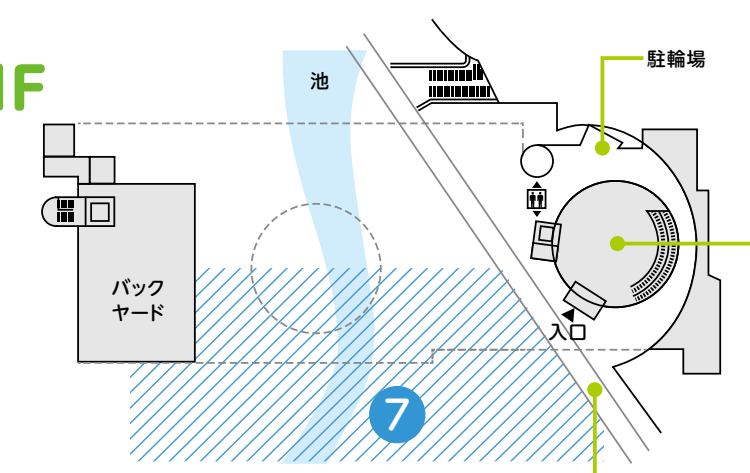
和紙の回廊

2F



授乳室

1F



エントランスロビー



ガラス張りの壁



木レンガの床



波型のベンチ（館内各所にあり）



散策ブリッジ

〈関連イベント〉

※いずれも、入場の際、特別展観覧券の半券が必要です。

1、講演「樋口一葉・その魅力と現代性」

日時：11月22日（土）13:30～15:00
講師：小池昌代（詩人・小説家）
定員：70名（先着）
申し込み開始：10月10日（金）10:00～

2、文学講座「一葉作品を読む」

①「にぎりえ」を読む
日時：10月26日（日）13:30～15:00
講師：多田蔵人（国文学研究資料館准教授）
定員：70名（先着）
申し込み開始：9月18日（木）10:00～

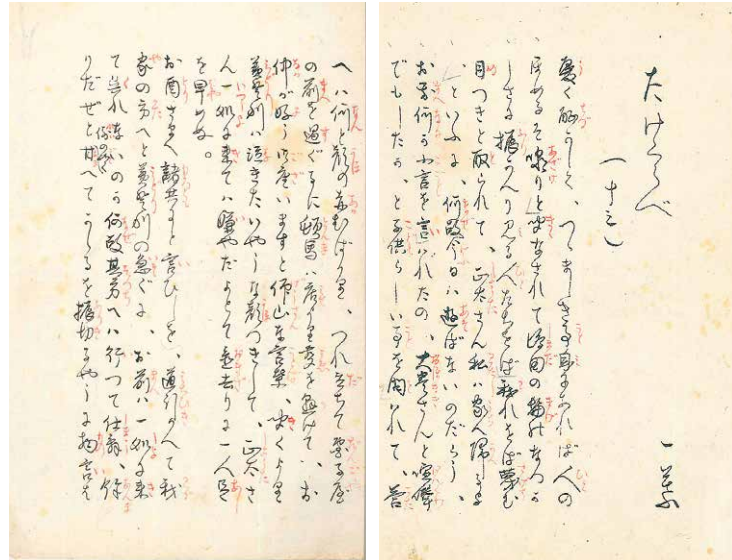
②「たけくらべ」を読む
日時：11月30日（日）13:30～15:00
講師：笹尾佳代（同志社大学教授）
定員：70名（先着）
申し込み開始：11月7日（金）10:00～

3、朗読と解説「一葉の日記」

日時：12月7日（日）13:30～14:30
出演：渡辺祥子（朗読家・フリーアナウンサー）
解説：赤間亜生（当館副館長）
定員：50名（先着）
申し込み開始：11月11日（火）10:00～

【申し込み方法】

電話で仙台文学館まで（022-271-3020）
※いただいた個人情報は上記イベントのご連絡以外に使用しません。



「たけくらべ」原稿（日本近代文学館寄託）



一葉の着物（日本近代文学館蔵）

学芸員による展示解説

日時：10月17日（金）、11月1日（土）、12月11日（木）
いずれも13:30～
申し込み不要、直接会場へ（特別展観覧券が必要です）

特別展「樋口一葉・その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく―」

会 期＝2025年10月4日（土）～12月14日（日）
休館日：月曜日（祝・休日は除く）、祝・休日の翌日（10月14日は開館）、第4木曜日
開館時間＝9:00～17:00（展示室への入室は16:30まで）
観 覧 料＝一般810円、高校生460円、小・中学生230円（各種割引あり）
企画協力＝公益財団法人 日本近代文学館
協 力＝樋口家、台東区立一葉記念館、山梨県立文学館

予告

二〇二五年度 秋の特別展

「樋口一葉・その文学と生涯 ―貧しく、切なく、いじらしく―」

この秋、仙台文学館では、樋口一葉の特別展を開催します。

「たけくらべ」「大つごもり」「にぎりえ」などの作品で知られる樋口一葉。父と兄を失い、戸主として母と妹を養わなければならなかった一葉は、文筆で生計を立てることを志したもののうまくいかず、困窮した生活に苦しみます。そうした日々の中でもなお「書く」ことを最後まで手放さなかった一葉が、短い生涯のなかで残した二十数作品の多くは、その死後高い評価を得て現代に至っています。

今回の展示では、一葉作品の草稿・日記などの自筆資料のほか、一葉が和歌を学んだ「萩の舎」の人々、小説の師として大きな影響を与えた半井桃水、そして『文学界』同人など文壇の人々との交流を示す書簡類等を展示します。これらの資料からは、二十四年の一葉の生涯とその暮らしぶり、そして一葉とその作品をめぐる人間模様をうかがうことが出来ます。

また、一葉と同時代に生き、もの書くことを志した東北の女性――若松賤子、田澤稲舟、相馬黒光――を取り上げ、明治に生きた女性たちの姿を紹介するほか、当館初代館長である井上ひさしの代表戯曲『頭痛肩こり樋口一葉』に関する資料も紹介します。

展示、各種イベントを通して、一葉の文学世界と人間像に触れてみませんか？みなさまのご来場をお待ちしております。

樋口一葉（ひぐち いちよう）

1872(明治5)年、現在の東京都千代田区に生まれる。本名 奈津（なつ、夏子）。15歳で戸主となり、小説家として家計を支えることを決意。しかし文筆では生計が立たず、下谷龍泉寺町に雑貨店を開業するが、間もなく閉業。1894(明治27)年、本郷区丸山福山町に移ったのち、「大つごもり」「たけくらべ」「にぎりえ」等を立て続けに発表。一葉の名を知らしめるそれらの作品を残した一年余りは「奇蹟の14か月」と呼ばれる。1896(明治29)年、24歳で病没。



一葉の文机（日本近代文学館蔵）

2025年3月～7月



① 佐伯館長が選んだ「名作を読む」シリーズの3回目。今回も参加者の方々とともに作品を読み進めました。



② 山村暮鳥の生涯をたどりながら、代表的な詩を朗読。参加者のみなさんは熱心に耳を傾けていました。



③ 短歌・俳句・川柳3部門の合同吟行会。約100人が参加し、すぐれた作品には賞が贈られました。



④ 夏休み恒例の「こども文学館えほんのひろば」。この季節は館内が子どもたちや親子連れで賑わいます。

- 6月 28日 第28回「ことばの祭典—短歌・俳句・川柳へのいざない—」開催。選者は短歌部門 大松達知、梶原さい子、俳句部門 土肥あき子、高野ムツオ、川柳部門 瀧尻善英、雫石隆子の各氏。〈写真③〉
- 29日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」会期終了。
- 7月 1日 外看板と館内のバナーを こども文学館えほんのひろば「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」に掛け替え。〈写真④〉
- 1日 6月に逝去した塩竈市出身の詩人・前原正治さんの追悼コーナーを2階ギャラリーに設置。前原さんは長年にわたり当館の運営協議会委員や友の会役員、晩翠賞委員などを務め、多方面でご尽力いただいた。
- 19日 こども文学館えほんのひろば「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」オープン(9月7日まで)。2,000冊の絵本・児童書が読める「絵本の部屋」、読み聞かせ・人形劇などの「お話会」も実施。

- 3月 9日 写真展「Life is Beautiful 大沼英樹と桜」関連イベント 大沼英樹氏によるギャラリートークを開催。
- 14日 2月に逝去した登米市出身の漫画家・イラストレーター 山内ジョージさんの追悼コーナーを2階ギャラリーに設置。当館では、2022年に特別展「山内ジョージ文字絵の世界」を開催した。
- 23日 写真展「Life is Beautiful 大沼英樹と桜」会期終了。
- 25日 外看板と館内のバナーを特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」に掛け替え。
- 4月 12日 当館講習室を会場に、第8回「仙台短編文学賞」の授賞式が開催された。
- 26日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」オープン。
- 5月 6日 仙台文学館友の会総会を開催。同日、友の会会員限定の特別展「詩人・山村暮鳥展」展示解説を実施。
- 11日 特別講座「佐伯一麦と読む J.D.サリンジャー『バナナフィッシュにうってつけの日』」を開催。〈写真①〉
- 17日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」展示解説を実施。
- 6月 1日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」関連イベント 講座「山村暮鳥の詩をどう読むか」を開催。講師は佐藤伸宏氏(東北大学名誉教授)。
- 6日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」展示解説を実施。
- 21日 特別展「詩人・山村暮鳥展—雲もまた自分のようだ—」関連イベント 朗読のひととき「山村暮鳥特集」を開催。出演は俳優の芝原弘さん、佐々木樹姫さん。〈写真②〉



交通のごあんない

■バス利用の場合

〈宮城交通バス〉

- 仙台駅西口バスプール2～4、6番乗り場 仙台北・泉地区方面行 (北山トンネル経由を除く)

〈市営バス〉

- 仙台駅西口バスプール6番乗り場 八乙女駅行
- ※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

■地下鉄利用の場合

- 地下鉄南北線「台原駅」下車、南1番出口より徒歩約25分 (台原森林公園内あかまつの道経由)
- ※山道です。雨天時は道が滑りやすくなりますので、ご注意ください。

■駐車場40台(無料)

- 台数に限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用ください。



カフェ ひざしの杜

お食事、デザート、各種飲み物などをご用意しています。
お得なランチメニューもあります♪

〔営業時間〕
10:00～16:00 (フードラストオーダー15:30)
※ランチは10:00～14:00
TEL 022-219-1341

